

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

- 黄色い大地の人びと P 3
- 中国の子どもたちの心に木を植える7° 0' E 外 P 4
- 環境と人間を考える写真展 P 5
- “チコロナイ” 第3期へ P 7



春、土の凍結がゆるむと家族みんなで農作業。子どもも立派な労働力だ(撮影:橋本紘二)

GENに参加するには

- ☆会員・会報購読者になる
- ☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する
- ☆ワーキングツアーに参加する
- ☆ビデオ『森よ、よみがえれ!』を見る
- ☆使用済みテレカ・オレカを集めて送る etc. あなたのご参加を待っています!

1999・3

66

特定非営利活動法人（NPO法人） 認証申請書を提出しました

緑の地球ネットワークの1月の世話人会を、特定非営利活動法人の設立総会として開催し、定款、設立趣旨書などを検討のうえ決定いたしました。

2月2日には、大阪府にたいし認証申請書を提出し、受理されました。2か月間の縦覧期間と2か月以内の審査

をへて、認証の決定があるはずですが、新たな施行にともなう経過措置として認証の最終期限は9月までとなっています。

しかし2月末までの全国の申請数が300団体あまり、大阪では30団体と、予想を大幅に下回っているために、そ

れほど遅くはならない見通しです。

緑の地球ネットワークは毎年5～6月に会員総会を開催することになっていますが、今年の第5回会員総会は、6月26日（土）午後1時15分から、ドーンセンター（大阪府立女性総合センター）で開催の予定です。それまでにはおそらく法人の認証が決まっていると思います。

会員みなさんへの正式のご案内はのちほどいたしますが、いまから予定にいらしてくださいようお願いします。

GEN自然と親しむ会



春を待つ雑木林を歩いて



2月7日（日）、吹田市の万博記念公園内自然文化園で自然と親しむ会『春を待つ雑木林を歩こう』がおこなわれました。約25名が参加、まだ肌寒い園内を、石原忠一先生の説明を聞きながら歩きました。

まずは入口の外で千里丘陵の歴史を聞いて、いざ園内へ。入ってすぐのメタセコイアをいきなりスケッチ。いつも目しているものでも、いかにきちんと見ていないかがよくわかります。それでもメタセコイアは枝がまっすぐ伸びているので比較的簡単だったのですが、あとからスケッチしたアキニレやケヤキ、ほころびはじめた梅の花などはとってむずかしかったです。梅は、『冬至』という名前の白い花がほかより早く咲いていました。

お弁当を食べて集合すると「今日の気温は何度でしょう」と先生の質問。6℃からはじめて2℃きざみでこれ！

と思うところで挙手します。答えは、「先ほど日陰ではかってみました、10℃でした」。どうりで肌寒いはずです。また、ここでは「木の年輪で色の薄いところは春から初夏に成長したところ、色の濃いところは夏から秋にかけて成長したところで、冬には成長しません」と、私のいままでの思いこみをひっくり返されてしまいました。色の濃くなったところは冬に成長したところだと思っていたんですけど。

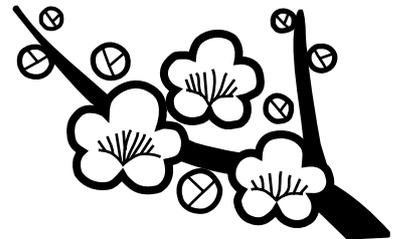
それから、自然観察学習館では展示されている写真パネルを見たあと、飼育されているうずらを前に、飛ぶためにいかに身体を軽くするか、鳥の身体のならたちの講義。鳥といえば、公園内ではツグミやジョウビタキを見ることができました。

そのほか、「植物は動かないと思われていますが、生涯に2度、大旅行をします。ひとつは花粉を飛ばしたりする

結婚旅行、もうひとつは種子になって親から離れるときです」というお話も興味深かったです。

石原先生がいつもおっしゃることですが、「いまここにある生命は、人間も動物も植物もすべて、地球上に生命が生まれたときから今日このときまで、ずっと途切れることなくつづいてきた生命です」というその

生命の重さを、少しスケッチしただけでは実感したなんていえないけれど、その素晴らしい片鱗ぐらひは感じとれたかなと思います。（東川）



“自然と親しむ会” 予告

今回の“自然と親しむ会”は、『山野草を食べよう』をテーマに企画中ですが、詳しいことがまだ決まっていません。ワーキングツアーの関係から、日程は4月下旬から5月上旬の日祝日になると思いますが、そうなる『食べる』には少し時期遅れになって、初夏の山を歩く会になるかもしれません。

実施日が次号の会報発行より前になりそうですので、参加してみようかな、とお思いの方はGEN事務所までご連絡ください。決まり次第詳細をお知らせいたします。

パンフレット完成！

“黄土高原に緑を！”のパンフレットが完成しました。大同の状況、緑化協力のようなすをわかりやすく解説しています。今回会報に同封してお送りしますので、リーフレットとあわせて、GENの活動をひろめるためにおおいにご活用ください！



早春の光のなかで思い思いに梅をスケッチする参加者

霊丘県の“できる男”

黄色い大地の人びと

植物園づくりにはりきる李向東



95年夏のことです。霊丘県で果樹園をみていた立花代表が、「これをつくった人はできるよ」とつぶやき、会ったこともないのに、「地球環境林センターにこういう人間をもってこればいいな」とつぶやきました。

それが李向東。経過は省きますが、彼はいま、地球環境林センター霊丘支所長兼霊丘自然植物園長です。去年夏のツアー参加者は、麦藁帽子をかぶって先頭を歩き、草花の標本を集めていたのを覚えているでしょう。

彼らの調査で、去年の夏、人里離れた山奥に、いくつかの自然林がみつかりました。種を集めたいのですが、適期が短いし、リスなどに食べられるので、なかなかむずかしいのです。ところが彼は秋までに200kgもの種子を集めていました。「ちゃんとできたら、本当に信頼しますよ」といっていた立花さんも、これにはびっくり。

自然林の下には、腐葉土が厚く積もっていました。ナラ・クヌギ中心の最高のもです。道路まで5km以上もありますから、搬出は困難だと思っていたのに、彼は村の人に頼んで何トンも運び出していました。これで苗圃の土壌改良ができます。

昨年秋、植物園の測量をし、境界に木の杭が打たれました。いまみると、それが番号を刻み込んだ石の角柱に変わっています。李向東が1本1本自分でつくり、立てて回ったのです。

なにごとに積極的に、反応の速いのが、私たちにはとてもうれしいのです。

最近、彼から手紙がきました。「植物園のメンバーが決まった。数が多すぎると、労働意欲が落ちたり、無責任になったりするから、少数精鋭でいきたい。今年の冬は園内も乾ききっているの、40kgの水を担ぐ道具を考案し

た。これを使えば、山の上でも1回につき40本の木を植えることができる」というのです。



カウンターパートの責任者、祁学峰主席が彼を評します。「ほかの人は緑化を任務だと思っているけど、彼は自分の生き甲斐だと感じている」と。

でも、気をつけないといけません。去年の夏、彼が「自然林まで歩いて2時間」といったので、私たちもその気になったのですが、それは彼の脚でのこと。私たちだったら、その2倍の時間をかけても、とても無理です。

(高見)

1999 夏の黄土高原ワーキングツアーのお知らせ

応募の出足がおそく、事務局もやきもきしていた春のワーキングツアーは、締め切りになるとしっかり30人をこえる人数があつまり、ひと安心。参加者の年齢層に異変があり、いつも春は学生が多いのに、今回は50歳代の方がなぜだか多いのです。どうしたことでしょう？ともあれ、比較的落ち着いた団になりそうです。

3月25日～4月1日のGENのツアーのあと、サントリー労働組合が昨秋につづき2度目のツアーを3月31日～4月6日、全ジャスコ労働組合が4度目のツアーを4月9日から14日の日程で派遣します。それぞれすでにメンバーも決まり、準備をすすめているところです。

さて、夏のツアーのメインも春と同じく霊丘自然植物園を予定しています。従来、夏は補植や中耕程度の作業しかできませんでしたが、今回はいままでとは違った場所で、いろいろな作業ができそうです。自然状態での植物遷移の観察や、樹種の多様化などの目的をもった、大同での緑化協力で新しい可



能性を切り開く基地ともいえる植物園で、李向東さんといっしょに汗を流しましょう。作業のあいまには、色鮮やかな高山植物にも出あえます。もちろん、ホームステイなど農村での交流も忘れていません。

●日程：7月29日（木）～8月5日（木）

●費用：一般＝185,000円、学生＝175,000円（国際航空運賃、中国国内での交通費／食費／宿泊費、ビザ取得手数料、GEN年会費などをふくむ）

※関空発着、中国国際航空利用。※成田発着便をご利用の場合は高くなる場合があります。※北京、大同での合流も可能です。

●定員：30人

●締め切り：6月29日（定員に達し次第締め切ります）

※費用、日程は変更になる場合があります。

★農協観光主催のツアーが7月22日～28日に予定されています。くわしくは次号でご案内します。

中国の子どもたちの心に 「木を植える」プロジェクト

高梨 英樹 (全ジャスコ労働組合)

全ジャスコ労働組合では「生きることの志を高める事業」の一環として毎年春に中国黄土高原ワーキングツアーを実施しています。4年目をむかえる今年には労働組合結成30周年記念事業として、中国の子どもたちの「心に木を植える」プロジェクトを現在、すすめています。ここでこのプロジェクトについてご紹介させていただきたいと思えます。

このプロジェクトは従来の緑化協力にくわえ、霊丘の子どもたちに小学校を寄贈しようというものです(小学校寄贈のエピソードはすでにご存じではないかと思いますが...)。春のワーキングツアー(4月9日~14日)で小学校の起工式をおこない、秋のツアー(9月2日~8日)にて寄贈式をおこなう予定です。また同時に国内では全組合員を対象に小学校の建設資金になる、家で眠っている商品券や未使用テレホンカード、切手、いらなくなった音楽CDやゲームソフトを集めたり、小学校で役立つものとして文房具や縄跳び、ボール、折り紙などの募集しております。集めた文房具などは秋の寄贈式のときに子どもたちに手渡すことができると考えています。現在、このプロジェクトの流れを機関紙『Phoenix』にて特集し、全組合員に配布し、呼びかけをはじめたばかりです。

ところで私事で非常に恐縮ですが、

不要な日用品を 送ってください!

GENでは、使用済みテレカ、書き損じハガキのほかに、ご家庭でねむっている不要な文房具、日用品などを回収しています。文房具は大同の小学校へのおみやげにし、日用品はフリーマーケットで販売した収益をGENの活動に役立てています。物品はすべて未使用の新品に限り、送料は送り主負担とさせていただきます。みなさんのご了解とご協力をお願いします。

このプロジェクトを担当し、この原稿を書いている私自身はまだ黄土高原に行ったことがない、いや外国に行ったことすらないのです。高見さんからいただいた霊丘の現在の小学校の写真は大きな衝撃でした。もちろんすでに労働組合には関わっていたので、黄土高原の緑化活動は知っていましたし、身近でできることはたくさんあったはずなのです。今まで忙しいということだけで、どれだけ自分の視野を狭くしているかを痛感しました。今回、このプロジェクトを準備していくなかで、職場で集めていた使用済みテレホンカー

ドがどのような形で苗木に生まれ変わり、また日本の感覚では考えられないような約120万円という価格で小学校が建設できることも知りました。わずかな気持ちがどれだけの人びとを助けてあげられることか身にしみてわかったのです。現在、私はこの活動を続けていくなかで「誰もが参加しやすい活動はないだろうか」「無関心の人たちをひきつける方法はないだろうか」というふたつを課題として考えています。本音は「とりあえず中国に行ってみよう、それから考えてもいいじゃないか」と言ってみたい。でもこんなことって特効薬などあるわけがなく、小さな行動から、そしてふと気づいたアイデアから道は開かれるのではないかと、そんな想いでこのプロジェクトをすすめています。

知っていますか『農業組合法人』 モクモク手づくりファームへようこそ

長坂 健司 (モクモク手づくりファーム・GEN世話人)

みなさんこんにちは、はじめましての人も多いでしょうか?

僕は、3年前に春のワーキングツアーに参加して以来、今まで3回大同に足を運んでいます。去年の4月に就職してからは足が遠のいていますが、近いうちにまた大同に行きたいなあと、は思っています。

僕が今働いている会社は「モクモク手づくりファーム」といいます。忍者の里、三重県は伊賀にある会社なのですが、農事組合法人という農業をしています。具体的には、豚肉から各種ハムソーセージの加工、地元の小麦をつかったパン、パスタ、クッキーなどの洋菓子の加工、地元の大麦をつかった地ビールの生産、そしてお米や野菜の栽培もおこなっています。販売のほうは、東京ドーム10個分以上の広さをもつファクトリーパーク(一種の公園ですが、地ビールの加工場などが実際に見学できます)内のレストランや店舗、通信販売もおこなっています。関西や東海地域にお住まいのかたは、モクモクの名前を一度お聞きになった人がおられるかも知れません。

近年、モクモクのような農業公園が地域興しの一環としてブームとなっているようですが、農業生産を主体とした公園を運営しているのは、モクモクだけといっていると思います。

農業は21世紀にむけて最も注目をあびている産業です。ただ、いまだに戦争直後の産業構造がのこっているために、もっとも改革の遅れている、逆にいえばもっとも個人個人のやりがいのある仕事です。食べるものは、人びとがおいしいければ喜ぶし、まずければ怒りだす、人間の本能に直結しているものなので、うそがつけられない面もありますが、きちんとしたつくり方をしていれば必ず消費者に消化してもらえ楽しさもあります。

機会があったら、一度モクモクのハムや地ビール、お米を食べてみてください。自信をもってお勧めします。

【連絡先】

モクモク手づくりファーム通販企画課
長坂健司 TEL. 0595-43-2222
〒518-1392 三重県阿山郡阿山町西湯舟3609



「環境と人間を考える写真展」

仙台で橋本紘二さんの写真展開催

「仙台で写真展をやる話があってね...」最初に橋本さんから連絡をもらったのは去年のこと。紆余曲折をへて、たくさんの方のお世話になって、無事、2月26日から28日まで、仙台フォーラスで写真展を開催できました。日程の関係で会報で予告できずに申し訳なかったのですが、以下はその報告です。

写真展開催をおえて

浪越 勇一郎 (大学生)

今回の写真展は、GENを主催として、全ジャスコ労働組合の協賛、ジャスコ(株)仙台フォーラスの後援をえて、仙台フォーラス・サンクホールにおいて、写真家の橋本紘二さんが撮影した中国黄土高原ならびにタイの写真パネルを展示しました。環境、写真、中国・タイなどのアジアに興味のある方等、567人の来場者の中には、ぜひ中国へのツアーに参加したいという方もいらして、予想をはるかに越える反響があったことに、仙台のスタッフ一同、大変驚いています。

この写真展を企画したのは、ひとつに、東北でもGENの活動を知っていただくことで、1人でも多くの方が環境問題に関心を向け、それにどのように取り組んでいけばよいかを考える機会を提供し、ふたつめに、東北でもGENの活動を活発にしていくためのネットワークを作り、次期の実行部隊になる人材を発掘するきっかけになればという思いがあったからです。それをやろう！と言ったのは仙台のメンバーで、去年仙台で開かれたシンポジウムに集まった方々と、他のNGOから

参加してくださった方の計6人でした。幾度もミーティングを開き(飲み会に終わったことも多々ありましたが)、1人ひとりが持ち前の個性を発揮して、約3ヶ月間、心的に物的にと協力しあって実現にまでこぎつけました。

来場者のほとんどが、場所がデパート内ということもあり、ふらっと寄ってみたという方でしたが、アンケートを書いてくださった75人の内、63人がGENの活動に興味を示してくださり、その内の32人が参加したいとのことでした。今回は規模がそう大きくないながらも、これだけの方が共感してくださったことから、GENの活動がいかにも有意義であり、社会がそれだけ求めているのだと感じました。

「環境と人間を考える写真展」をやろう！

佐々木 陽子 (ジャスコ仙台フォーラス)

誰が言い出したのか、「黄土高原の写真展をやりたい！」と。その誰かさんの思いをかなえるために、「浪越実行委員長」に全責任をおしつけて、私たち6人は動きはじめました。

タイのパネルを橋本さんから、黄土高原のパネルは全ジャスコ労組から借りることになり、会場は組合活動に非

協力しているクセに上司を説得してもらって、勤務先にあるホールを無料で借りたまでは順調でしたが、パーティーションの料金が予想以上で、いったんはあきらめることになりました。でも、そのときの「あきらめるのは最後でいい。やるだけやりましょう」という遠田先生の一言をささえに、勝手にパーティーションを手配してしまいました。

自称「遠距離恋愛中」の「彼女」にポスターを作ってもらったり、セミナーで出会った方のカンパがあったり、いろいろな方の協力でなんとか実現することができました。

おかげさまで写真展には567名の来場者と2万円をこえる募金があつまりました。

さて、われらが親愛なる実行委員長は「単身中国に乗りこもうというぐらだから“猛者”だと思ったんだけど」という期待をもたれたうえ、「どんな字を書く“もさ”?」「もさもさ」と平仮名で書くんじゃないかと“敬意”をあつめていたのですが、テイクアウトのアイスを見て「何ですか?」、アイスだと知ると「アイス持って帰ったら溶けるじゃないですか」.....。これからの彼の活躍を信じて疑っておりません、もちろん。

こうして、学生の卒業記念(?)の写真展は終わり、後には平均年齢がグレードアップしたメンバーだけが残されることになりました。

緑化リーダー養成講座のお知らせ ~関東ランチから

地域社会に根ざした緑化が、いま求められています。植物を知り、植生を調べ、地域社会の問題点を探り、住民との関係をつくる.....まさに多様な方法を身につけることが必要です。行政の仕組みを知り、地域の歴史を学ぶことも欠かせません。

緑の地球ネットワーク・関東ランチでは、こうしたノウハウを習得する

場をもうけようと考えています。

来る4月から毎月1回、立教大学池袋キャンパスにて講習会をおこない、夏には野外に出て植生調査実習を予定しています。用意したメニューをこなし、やる気がある方は2000年春のワーキングツアーに参加していただき、実践的に緑化の現場を体験します。水準に達した方は〈GEN緑化リーダー〉と

して認定し、緑の地球ネットワークが企画する短期ワーキングツアーにリーダーとして参画できることとします。

現在、詳細をつめているところです。興味をお持ちの方は、下記までご連絡ください。

【問い合わせ先】

上田 信 FAX. 042-323-5774
〒185-00 国分寺市西恋ヶ窪3-12-14
グリーンヒルズ武蔵201
E-mail: gfa06526@nifty.ne.jp

緑の中国 歴史篇 最終回

上田 信 (立教大学教授)

ほぼ三千年にわたる中国の歴史のなかで、昨年のはじめに大きな変化に結びつくターニング・ポイントだったのかもしれませんが。夏に東北の松花江と華中の長江とが大氾濫し、中国政府も天災だとせず、ようやく河川上流部での森林破壊が大きな要因となっていることを認めました。

他方、地球温暖化防止枠組み条約をにらんで、先進諸国はクリーン開発メカニズムと呼ばれる仕組みを模索しはじめています。それは先進国が発展途上国の温暖化ガスの排出量削減に寄与した一部を、先進国側の削減分とみなすもので、先進国が途上国で緑化に貢献すれば、排出枠が確保できると見込んでいるのです。そうすると、歴史的

に森林が破壊されてきた中国は、緑化可能な広大な土地を有するということになるでしょう。日本の経団連は中国で植林事業を展開しようとしています。

まもなく訪れる21世紀は、まさに中国での緑化を軸にして、国際的な政治と経済とが回るようになるのではないのでしょうか。そのときに問題になるのは、どのような緑をつくるのか、ということです。二酸化炭素の吸収ということだけを考えて造林すると、ユーカリばかりを植えてしまうということにもなりかねません。その土地に棲む鳥やけものたちが生存できる森、その土地に住む人びとのゆとりを支える森、そうした森造りを提案していくことがとても大切になっています。

中国の森と緑の歴史を振り返るなかで、文化に根ざした森林の姿を明らかにする。森造りに取り組んだ歴史上の人物を顕彰する。また、村に足を踏み入れ、村人と生活を共にし、子どもたちの希望を知る。緑の地球ネットワークの黄土高原での取り組みには、まだ小さな芽に過ぎないかも知れませんが、こうしたさまざまな可能性が含まれています。その可能性に形を与える作業には、誰でも参加できます。

これまで歴史の流れのなかに、森と人との関わり方を見てきました。連載だと話のつながりを忘れてしまう、という意見もいただき、これまでの話題を含めて、1冊の本にまとめました(『森と緑の中国史』岩波書店、4月刊行予定)。ぜひ読んでみて下さい。そして質問したいことがあったら、気軽にご連絡ください。永いあいだ読んでいただき、ありがとうございました。

世界の森林と日本の森林 (その18)

立花 吉茂 (緑の地球ネットワーク代表)

●種子を蒔くには

森林の再生は苗を植えることから始まる。苗は種子を蒔くことから始まる。種子は熟した果実の収穫から始まる。いきなり3段論法になった。果実といえば、リンゴやナシを思い出すが、種子の形はいろいろ複雑である。作物を例にとれば、エンドウの種子は莢(サヤ)という果実の中に入っている豆である。トマトの種子は多汁な果実の中にあり、ハウレンソウの種子と呼んでいるのは実は果実である。

緑化につかう樹木類の種子も千差万別である。下図は多くの植物の果実を3大別したものである。なぜ、形にこだわるのか? それは、形によってその取り扱い方が変わるからである。蒔いたら必ず生えてほしい。扱い方を間違えると生えないからである。

○殻斗類 (どんぐり類)

スダジイ、コジイ、アラカシなどの常緑カシ類、コナラなどの落葉カシ類

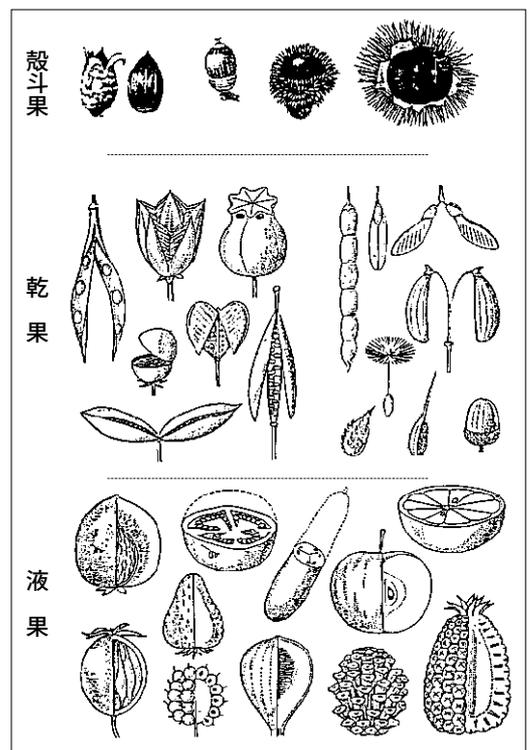
(ナラ)、マテバシイなどの殻斗(どんぐりのお皿)のある植物は、デンプン質の大きな種子なので、熟して落下してから、乾燥した場所にあると1カ月くらいで死んでしまう。だから、成熟期をよく調べて採取し、乾燥させないように貯蔵するか、取り播き(採取してすぐに蒔くこと)する必要がある。

○乾果類

サヤの中に入っているもの、堅い皮で包まれているもの、羽のついたものなどで、カエデ、エンドウ、ナタネのようなタイプ、またフヨウ、ムクゲのような乾燥した果実の中に入っているもので、硬い種皮があって、吸水せず、何年も経ってから生えるものがある。熱湯処理で吸水する種類が多い。

○液果類

スイカ、リンゴ、モチノキ、バラのような多汁な果肉に包まれた種子で、果肉が乾燥と発芽を抑制している。果肉を除いて取り播きするか、湿らせて低温で貯蔵する必要がある。休眠している種子が多い。低温処理、ホルモン処理でよく発芽する。



ナショナルトラスト “チコロナイ” 第3期へ ～新しい組織づくりを開始します～

緑の地球ネットワークのなかで1993年12月から準備が始まり、1999年12月10日から募金活動が開始されたナショナルトラスト・チコロナイも第1期、第2期と順調に進み4年間が終わりました。ありがとうございました。

ところで、今までは「緑の地球ネットワーク・チコロナイ部会」として活動してきましたが、発足当初から、10年計画でできるだけ早く、北海道の現地に組織を作り、そこが中心となって活動できるようにすること、法人化して末長く続く組織にすることなどが話し合われていました。

そして2月20日のGENの世話人会で、

GENの特定非営利活動法人化（予定）を契機に、活動の主体を二風谷現地に作る新しい組織に移行させる方向で進めることが決まりました。それにとともに、第1期で買い取った山林と第2期の寄付金の山林買い取り等の準備金も新しい組織に委譲し、第3期計画からの募金活動の主体も新しい組織が行う予定です。詳しくは、6月に開かれるGENの総会で報告し、みなさんの了解を求めることになりました。

GENは、これから北海道現地に本拠を移したチコロナイの運動を、関西の地で側面から応援する関係になります。第3期計画の案内リーフレットはま

だできていませんが、1998年12月10日から2年間、募金目標は400万円にする予定です。

第3期計画からは、二風谷現地につくる新しい組織『ナショナルトラスト・チコロナイ』として活動を継続します。昨年12月10日以降に寄付されたものは、第3期計画に入れさせていただきました。現在も受け付け中です。

今後ともよろしく願いいたします。

【“チコロナイ” 連絡先】

武田繁典 〒546-0003大阪市東住吉区今川6-2-6 (TEL/FAX.06-6704-7720)
貝澤耕一 〒055-0101北海道沙流郡平取町二風谷31-3 (TEL.01457-2-2089 FAX.01457-2-3991)
郵便振替 00900-2-52024
加入者名「チコロナイ」

“チコロナイ” 第2期の報告

“チコロナイ” 第2期計画は昨年12月9日で終了しました。遅くなりましたが、総まとめを報告しますが、総まとめを報告します。

【期間】 3年間（1995年12月10日～1998年12月9日）

【寄付】 484件（328人） 5,602,453円

○期間別内訳

- ・1年目（1995.12.10～1996.12.9）
189件 1,988,440円
- ・2年目（1996.12.10～1997.12.9）
120件 1,435,267円
- ・3年目（1997.12.10～1998.12.9）
175件 2,178,752円

○寄付者居住地内訳

- ・北海道 47人 ・東北 7人
- ・関東 64人 ・中部 21人
- ・近畿 153人 ・中国 10人
- ・四国 8人 ・九州 18人

【収入】 6,440,326円

○内訳

- ・第1期より繰り入れ 764,977円
- ・寄付 5,602,453円
- ・寄付以外（預金利息等） 72,896円

【支出】 379,098円

○内訳

- ・通信事務費（1995～98年度前半分、GENへ） 209,098円
- ・97年度保全費 110,000円

・97年度維持管理費 60,000円

【残高】 6,061,233円

○内訳（使用予定）

- ・通信事務費（98年度後半分、GENへ） 22,037円
- ・98年度保全費 110,000円
- ・98年度維持管理費 60,000円
- ・99年度保全費準備金 110,000円
- ・99年度維持管理費準備金 117,074円
- ・第2期買い取り準備金 5,642,126円

第41回 チコロナイ学習会

- 日時：3月27日（土）16時～18時
- 場所：GEN事務所（06-6583-1719）
- 内容：「ナショナルトラスト・チコロナイの新しい組織」について相談をします。
- 参加費：100円+カンパ
- 問合せ：武田繁典（別記）
- ★初めての人も、飛び入りも大歓迎！

チコロナイアイヌ語講座

～いやでもわかるアイヌ語～

- 今月は講師の都合でお休みにします。
- 問合せ：平石清隆（TEL. 0745-23-5627）
- ★4月のチコロナイ学習会、アイヌ語

講座は、18日のたけのこ掘り、23日からの植樹ツアーのためお休みです。

春の二風谷チコロナイの森 植樹ツアー

チコロナイの森のカラマツを、冬のあいだに伐りました。そのあとにミズナラやカツラのような広葉樹の苗木を植樹します。いよいよチコロナイの森の再生作業が始まります。

- 日程：4月23日（金）～26日（月）
- 問い合わせ・申し込み：3月23日までに武田繁典（別記）まで。

※23日夕方関西発、26日夜伊丹帰着の航空運賃込みで60,000円程度かかる見込みです。現地で合流も可能。

たけのこ掘りと焼き肉パーティー

チコロナイの仲間で貝塚市の岸上さんが、ご自分の家の竹林での「たけのこ掘り」に誘ってくださいました。

たけのこ掘りのあと、竹林で焼き肉と楽しいひとときを過ごしましょう。

- 日時：4月18日（日）10時から
- 集合：南海「岸和田」駅10時
- 参加費：1,000円
- 申し込み：4月15日までに武田（別記）まで。



留学生支援に古本を！

阪神大震災で被災した留学生支援に始まった(財)神戸学生青年センターの「六甲奨学基金」の一部とするために、もう読まない本を役立てませんか。

●送り先：(財)神戸学生青年センター
何やか屋古本部 〒657-0064神戸市
灘区山田町3-1-1 TEL. 078-851-2760
FAX. 078-821-5878-MAIL: rokko
@po.hyogo-iic.ne.jp

●期間：99年3月1日～3月31日の間のみ、ご持参またはご送付ください。

●送料は送り主負担でお願いします。

●ジャンル不問。汚損のひどいもの・雑誌・教科書・参考書・古いコンピュータ解説書などはご遠慮ください。

※古本市は3月15日から5月15日まで同センターで開催しています。

核と温暖化を考える大阪集会

マニラ諸島共和国からのゲストを迎えて

ビキニ環礁での核実験で知られるマニラ諸島共和国は、太平洋マイクロネシアにあります。地球温暖化による海面上昇のため、国土の大部分が水没の危機にさらされています。

198年の独立以来、行方を模索しつづけているこの国の現状を、ジュード・サムソン牧師が報告します。

●日時：3月18日(木) 14時～17時

●場所：日本聖公会大阪聖パウロ教会2階礼拝堂(阪急「梅田」駅茶屋町口東、東京三菱銀行角を東へ約100m)

●会費：500円

●主催：アジアボランティアセンター
(TEL. 06-6376-3545 FAX. 06-6376-3548
E-MAIL: avc@earth.email.ne.jp)

※なお、京都集会在3月17日(水) 19時～21時、日本基督教団平安教会(京都市営地下鉄「国際会館」駅下車すぐ TEL. 075-724-0711)で開催されます。

日中交流セミナー

「長江の夢」上映と監督馮艶さんの話

「長江の夢」は、天津出身のビデオジャーナリスト、馮艶さんが、中国三峡ダム建設のために水没する村の農民たちと生活をともにしながら撮りためた100時間におよぶ映像を85分にまとめた記録ビデオです。上映会のあと、馮艶さんのお話を聞きましょう。

●日時：4月26日(月) 18時30分～21時

●場所：大阪市立弁天町市民学習センター (TEL. 06-6577-1430、JR環状線「弁天町」駅北出口、地下鉄中央線「弁天町」駅2A出口から直通通路でORC200の7階へ)

●参加費：1,000円

●主催・問い合わせ：関西日中交流懇談会 (TEL/FAX. 0797-88-2240)

ブントンをどうぞ

南国土佐から、ひとあしはやく春のたより、ブントンのご案内です。

●土佐文旦(低農薬、有機栽培)

A	5kg	3L	8～9玉	3,500円
B	5kg	2L	10玉前後	3,000円
C	5kg	L	12玉〃	2,500円
D	5kg	M	15玉〃	2,000円

(10kg箱も用意しております)

●出荷：2月20日～4月上旬

送料別途：関西.....630円

関東.....840円

★ご注文は田中隆一さんまで

〒781-7412 高知県安芸郡東洋町甲浦
TEL/FAX. 0887-29-2500

★売り上げの一部をご寄付いただいておりますので、ご注文の際は「GENの紹介」とひとこと添えてください。

編集後記

96年1月に連載がはじまった『緑の中国(歴史篇)』が今号で最終回をむかえました。お忙しいなか、3年以上にわたって書きつづけていただいた上田先生、ありがとうございました。ご感想や新連載のご要望など、GEN事務所までお寄せください。お待ちしております。(東川)